

日本鉄鋼協会記事

理事会

昭和45年度第1回理事会 開催日：4月9日。出席者：的場会長，他39名。

1. ラテンアメリカ鉄鋼会議出席の件
本年8月10～13日ベネズエラ，カラカスで開催のラテンアメリカ鉄鋼会議への今井理事の出席ならび，に特別講演を願うことが承認された。
2. 理事職務分掌決定の件
庶務，会計，企画，編集，研究の理事職務分掌が原案どおり決定
3. 編集委員長，和文会誌分科会主査委嘱の件
松下理事に委嘱することを決定。
4. 庶務分科会主査および表彰奨励選考分科会主査委嘱の件
鍵和田理事に委嘱することを決定。
5. 表彰奨励選考分科会委員委嘱の件
木下，河合，中村，西原各理事に委嘱することを決定。
6. 特別資金運営委員会委員委嘱の件
五弓，住友各副会長，三島，山岡，各前会長，松下編集，俵企画，今井研究各委員長，池上会計主査，木下理事（委員長は的場会長）に委嘱することを決定。
7. 常務委員委嘱の件
荒木透君（編集担当）を委嘱することを決定。
8. 東海支部長交代承認の件
旧支部長 井上道雄君（名古屋大学工学部教授）
新支部長 堤 顕雄君（トヨタ自動車工業，取締役）
以上交代が承認された。
9. 支部活動に関する件
昭和44年度各支部の事業ならびに収支決算の報告があり承認された。
10. 資料センター準備委員会設置に関する件
準備委員会を設置することが決定した。

企画委員会

第2回委員会 開催日：4月24日。出席者：俵委員長他29名。

1. 湯川記念資金取扱規程新設，特別資金運営委員会規程変更について
湯川記念資金の受領による規程の新設，ならびに特別資金運営委員会規程変更の基本方針が承認された。
2. 来春講演大会会場について
来春も経団連会館において開催することが承認された。

研究委員会

45年度第1回委員会 開催日：4月22日。出席者：今井委員長，他26名。

今回は昭和45年度第1回研究委員会であり，新しく研究担当理事を加えて開催された。

(1) 研究担当理事の交代

井上(名大)，美馬(阪大)，池田(新日鉄)，下田(日本製鋼)各理事の任期満了に伴い新しく坂尾(名大)，不破(東北大)，中村(日立金属)，西原(神鋼)の4氏の新任理事の紹介が行なわれた。

また研究担当常務委員の松下委員(東大)は今度編集委員長に就任され研究委員会常務委員を退かれた。

(2) 研究委員会としての本年度の計画などについて検討し昭和45年度研究委員会の開催日の決定，溶鋼溶滓部会第3，4，5分科会の1年延長の承認などを行なった。

編集委員会

第2回和文会誌分科会 開催日：4月14日。出席者：松下主査，他20名。

1. 論文審査報告
19件の報告があり，掲載可16件，修正依頼3件。
2. 鉄と鋼第56年第8号（7月号）掲載論文選定
論文4件，技術報告1件，技術資料1件，展望1件，部会報告1件を選定。
鉄と鋼第56年第9号（8月号）論文集掲載論文選定
論文14件，技術報告1件を選定。

第2回欧文会誌分科会 開催日：4月21日。出席者：橋口主査，他19名。

1. Technical term について
「純酸素転炉」は「Oxygen top blowing converter」という用語のかわりに「LD converter, B.O.F., oxygen converter」などを用いることとなった。今後も適当でない英語の技術用語を改めていくこととなった。
2. 12件の論文につき査読報告がなされた。
3. 1件の論文につき執筆を勧誘することが決められた。

第2回講演大会分科会 開催日：4月17日。出席者：草川主査，他27名。

1. 第80回講演大会について
(1) 会場は鉄鋼短期大学，会場数14教室と決定。
(2) 討論会テーマは下記のように決定
高炉のコンピューターコントロールとそのための計測の問題 座長 東大工 館 充君
圧延板の形状制御について 座長 阪大工 加藤 健三君
鋼の冶金的要因と被削性 座長 東大工 荒木 透君
鉄鋼の格子欠陥 座長 東大工 橋口 隆吉君
2. 昭和46年度講演大会開催予定地についての報告
(1) 春季大会 東京 経団連会館
(2) 秋季大会 北陸地区（金沢大学）
3. 金属学会とのシンポジウム共催について薄板の成形性については従来どおり，分析については今後さらに

検討をすすめることとなつた。

4. 第79回講演大会の反省

会場、スライドなどにつき意見が出された。

5. 講演分類について

検討の結果26項目にわたる講演分類が決定

昭和45年度第1回出版分科会 開催日：4月30日：出

席者：佐藤主査，他 15 名。

1. 昭和47年刊行予定の「鉄鋼製造法」主として分冊について検討した。

2. 薄板マニュアルについて

共同研究会鋼板部会（ホットストリップ，ならびにワールドストリップ分科会）において編集作業をはじめむね報告があつた。

共同研究会 計測部会

第29回秤量分科会 開催日：4月17，18日。出席者：中沢主査，他 46 名。

「タイプライターの検定」に関して計量研でのヒアリング結果を幹事から報告の後，討論にはいつた。

○議題と発表件数

1. 原料，製鉄関係の秤量：4件
2. 製鋼関係の秤量：2件
3. 圧延関係の秤量：2件
4. 電子管秤量機：3件
5. 秤量関係の改善研究：1件
6. 秤量機の検査改善：1件
7. その他：3件

○住友金属小倉製鉄所の見学

○次回予定 昭和46年1月末～2月初

於：川崎製鉄，西宮（計量機工場）

原子力部会

第9回第1小委員会 開催日：4月6日。出席者：松本小委員長，他 19 名。

1. 第3次WGの製鋼部門のプロセス変換の検討結果がまとまり，報告案の審議が行なわれた。その結果，第3次WGは今回提出の報告書をもつて終了し，この報告書を5月中旬に予定される部会に提出することになった。

2. 第6回小委員会の決定にもとづき，第4次WGを編成し製鋼工程以降のプロセス変換を，主として加熱炉熱源への電力利用の面から検討することとし，主査に吉谷委員を選出した。なおWGメンバーは主査と直属幹事とで相談のうえ，構成を決めることになった。

第4回原子力部会第2小委員会 開催日：4月22日。出席者：松下委員長，他 17 名。

1. 45年度通産省重要技術研究開発費補助金申請「シャフト炉による鉄鉱石の還元法に関する応用研究」に関する説明ならびに同研究を推進するためにシャフト炉小委員およびワーキンググループを設立することが報告された。

2. ワーキンググループ活動報告

(1) 「高炉製鉄」グループは還元鉄の高炉装入に関する調査をまとめる。

(2) 「直接製鉄」グループは3つの直接製鉄プロセスのコスト検討を行ない，シャフト炉法および流動層法的を絞つた。

3. 46年度研究計画について

直接還元の実験を行なうにはかなり規模を大きくする必要があり，計画案作成はDWGで行なう。

第5回第4小委員会 開催日：4月17日。出席者：森小委員長，他 19 名。

1. 早大理工学部金属学科加藤栄一教授を招き，金属材料の水素透過に関する解説をお願いした。

2. 水素漏えい問題の今後の取り扱い方について討議された。透過水素量を算出し，リーク量が処理量をはなはだしく越えない場合は，水素除去法を検討，リーク量をはなはだしく許容量を越える場合は，新しい熱交換システムを検討することになった。

3. 住友金属，神戸製鋼，川崎重工および日立造船から第4小委員会加入の希望があることが紹介された。

4. 今後の本委員会の運営について，専門グループを設置して，掘り下げた検討を進めたい旨，委員長の構造が説明され，次回に案を提出して審議することになった。

次回は5月29日（金）に予定している。

第3回第5小委員会 開催日：4月13日。出席者：国井委員長，他 14 名。

1. 還元ガス製造-製鉄プロセスの概案

(1) HYPRO法によるガス製造と還元炉の結合の検討

(2) 炭化水素の水蒸気改質によるガス製造と還元炉の結合の検討

2. 還元ガスとしてのオフガスターデータの検討

3. 還元ガス製造法の検討

(1) 第2小委で若干検討した，LNG・ナフサー水蒸気改質プロセスについて検討を行なうことにする。

(2) 資源的にみても安定している重油などを原料とした還元ガス製造プロセスを検討することにする。

第9回特許グループ 開催日：4月14日。出席者：葛本主査，他 10 名。

1. 外国特許調査関係

(1) 西ドイツの原子力製鉄に関する特許（公告番号1268637）はA.T.H.の異議申立によりつぶれたことが報告された。

(2) 今後の西ドイツ，ベルギー，フランス，米国および国内の原子力関係特許の調査にあたり，各分担を協議した。

(3) 1945～1969年の間の，直接還元に関する米国特許公報を購入し，協会に常備することが決まった。

2. 共同研究運営規定の特許契約関係

本件は次回（5月12日に開催予定）に討議される。

標準化委員会

第21回第22回特殊鋼分科会 開催日：4月13，20日。

出席者：西主査，他 15 名。

第21回および第22回特殊鋼分科会のテーマは日本自動車工業会から提案された「自動車用炭素鋼材および焼

入性を保証した構造用鋼材(H鋼)協定規格(案)—1970について自動車業界に材料を提供しているメーカー側としての検討を行なった。

その結果を意見書として4月27日再度自動車業会側の委員と会議を行なうことになっている。

主な問題点としては、

- (1) ボロン鋼の取り扱い
- (2) 硫黄および鉛快削鋼の取り扱い
- (3) 鋼種記号, その他

などがあり今後鉄鋼メーカー, 自動車メーカーで話し合っていく。

5. その他

45年度試験計画については次のとおり実施することが了認された。

- 1) 第4回共通高温引張試験の継続
- 2) 第5回共通高温引張試験の着手
- 3) 国際共通試験の継続
- 4) 「低合金鋼」の出版準備
- 5) スペシメンバンク作業の継続

とくに、スペシメンバンクの試験結果報告については中間報告を本年9月末のデーターを年内に回収するためこの協力を文書でお願いすることとなった。

クリープ委員会

第1回クリープ試験分科会 開催日: 4月16日. 出席者: 平主査, 他 25名.

1. 第3回共通高温引張試験結果報告について
関東側小委員会で取りまとめた原案につき承認され, これを報告書に印刷のうえクリープ委員会のメンバーに配付することになった。

2. 第4回共通高温引張試験経過報告について
実施機関よりそれぞれ試験材料の入手状況が報告されまだ未着のところがあるので事務局より材料提供会社に対し連絡することとなった。なお, データシート部会に発足する高温引張試験分科会との連絡は金材技研横井委員が当たることとなった。

3. 「低合金鋼」取りまとめに関する経過報告について
当会より発刊するため出版分科会に同企画書を提出することとなった。

4. 国際共通試験に関する中間報告について
これはクリープ破断1万hr試験を実施している金材技研, 住友金属, 神戸製鋼より中間報告が行なわれた。

資料委員会

第2回委員会 開催日: 4月20日. 出席者: 草川委員長, 他 18名.

1. 「鉄と鋼」索引カードについて

(1) 分類標数について, 同じタイトルでもカードによって異なつて標数がついているものが多数あるので他の疑問点をも含めて, ドクメンテーション協会に問い合わせることにした。

(2) 抄録掲載については, 編集委員会で分類方法が変更したので, それをも含めて, 次回までに編集委員会より解答を得ることにした。

2. 鉄鋼技術情報専門センターについて

昭和45年度第1回の理事会で, センター設立準備委員会の設置については一応承認された。準備委員会の人選その他については現在考慮中であるとの事務局からの報告があつた。

3. 図書購入について

大ハンドブック(グメリング, その他), 海洋開発, ASM 発行の単行本などについて, 今年度収集することにした。